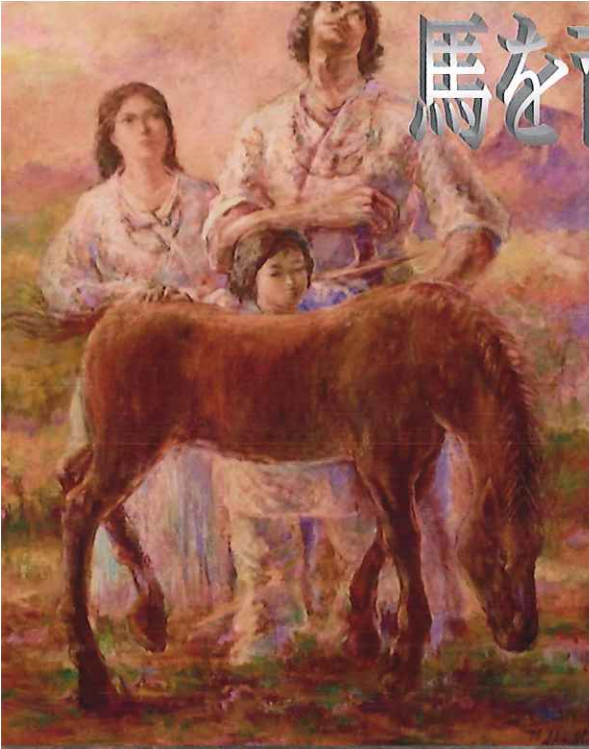
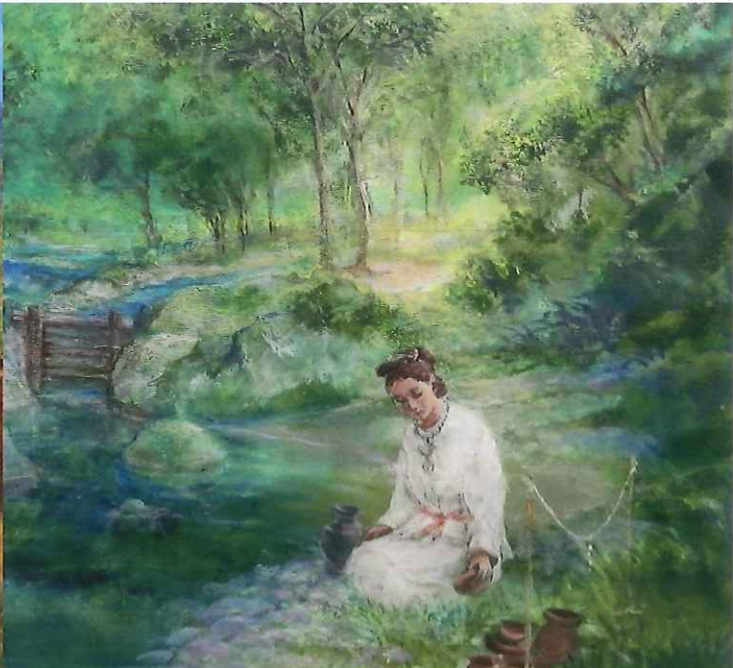


馬を育てた上毛野国の物語



原画展9月15日～23日
前橋芸術文化れんが蔵



能美彰英 絵画展

馬を育てた上毛野国の物語

会期 2026年9月15日(火) ~ 23日(水)

通常 午前10時 ~ 午後7時

※19(土)楽器ライブ演奏とギャラリートーク

20(日)研究者を招いて古代馬などについての懇話会

上記2日間と最終日の23日(木)は午後5時まで

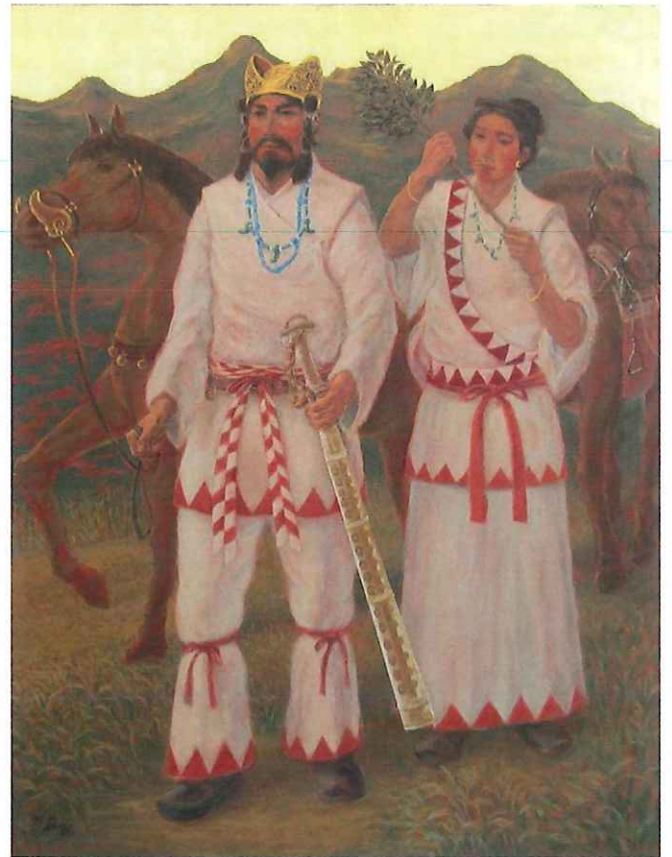
会場 前橋市芸術文化れんが蔵 (入場無料)

前橋市三河町1丁目16番地27

※19日,20日は、午後2時より開始です。駐車場に限りがありますので乗り合わせをお願い致します。



連絡先 みどり市笠懸町阿左美 2133-7 0277(76) 0265



「上毛野王・国見之図」 26

F100

今から1500年前の古墳時代、群馬県が上毛野国と呼ばれていた時代に2度に渡る榛名山の大噴火がありました。その被害で多くの村が埋もれてしまいましたが、人々は長い年月をかけて復興し、かつてそんな歴史があったことも人々の記憶から消えてしまいました。ところが、2012年に火砕流とその後の噴出物で埋もれていた渋川市金井東裏遺跡の発掘調査現場から甲を着た人骨が発見されたのです。そして、首飾りを着けた女性と2人の乳幼児が発掘されたばかりでなく、馬の骨や多数の足跡が見付かったので全国から注目を集めることとなったのです。

前作「馬を育てた古墳時代の村の謎」を出版する直前になって隣の金井下新田遺跡から巨大な網代垣の館跡や2人の子供と3頭の馬の遺骨が次々と発見されました。それらの新事実は、従前の古墳時代のイメージを全く変えるものでした。それらを踏まえた上で本作は、人々の関係を見直したり、当時の社会状況を描き直したりしながら物語を膨らませ、さらに、後の時代の動向も書き加えて刷新することとなった次第です。

なお、本展示は、新たに描き加えた絵や本には載らなかった作品も含めて総数60余点による原画展となります。まだ学術的な裏付けのない想像の部分も多々ありますが、郷土の歴史を昔話として幅広い年齢の方々に身近に感じて頂けるようにという想いで創作しました。

ご多忙中とは存じますが、ご高覧下さいます様ご案内申し上げます。 <主催者> '26年(令和8年)7月

会期中イベント 19日(土)

Pig on the Tree 1998年結成のアコースティックバンド
主にアイルランドなどケルト圏の伝統音楽を独自のアレンジで演奏。

<メンバー>

斎藤正久 (Ac.ギター)

石川容子 (フドル)

石川 稔 (アコーディオン)

哀調漂うフドルの音と軽妙なギターとアコーディオンの掛け合いと疾駆する楽曲が魅力。



朝倉 力 フルート・篠笛奏者。クラシックから上州馬子唄、懐かしの唱歌など、自在に奏でる地元前橋の笛の達人。30分交替で各2回演奏します。洋の東西がコラボできたら幸いです。古代馬のいる絵を背景にお楽しみください。

20日(日)

上毛野国について考古学研究者と語る

前原 豊 長年、藤岡市や前橋市教委などで文化財保護に勤められ、大室古墳群の研究や普及に貢献される。
杉山秀宏 群馬埋蔵文化調査事業団に勤務。特に渋川市金井遺跡群の発掘調査に携わり成果を出される。両名をお迎えて古代上毛野の馬の飼育や古墳時代の社会について疑問を解き明かしていく懇話会。

- 関係者の自己紹介
- 作品を観ながら作者ギャラリートーク
 - 制作していて気づいたこと・想像しながら描いたこと
 - 研究者からの視点を伺う
- 考古学講話
 - ☆ 金井遺跡群と同時代の大室古墳群 前原 豊
 - ☆ 金井遺跡群以降の上毛野国の動向 杉山秀宏